

平成30年度 第2回 総合教育会議 会議録概要（抜粋）

1 開催日時 平成31年3月28日（木） 午前16:00～17:30

2 場 所 飯山市役所 3階 31号会議室

3 出席者 飯山市長 足立正則
教育長 長瀬哲
同職務代理 吉越邦榮
委員 樋口一男
委員 西條三香
委員 小林輝紀

4 出席した事務局職員

教育部長	常田新司
文化振興部長	桑原良満
学校教育係長	大口なおみ
学校教育係	宮澤麻由
指導主事	吉越眞一

5 会議の経過及び発言

1 開 会

（教育部長）

ただいまより、平成30年度第2回目の総合教育会議を開会します。

なお、内容及び資料等の一部につきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（総合教育会議）第1条の4第6項により非公開の予定です。

それでは足立市長から挨拶をお願いします。

2 あいさつ

（市長）

年度末最終週という事で、お忙しいなかお集まりいただきありがとうございます。

本日は協議事項等たくさんありますが、協議の程よろしくをお願いします。

3 議 題

（1） 岳北地域の高校の将来像を考える協議会について

【事務局から資料説明】

資料4ページに事務局案ということで今後のスケジュールをお示ししてございます。

今月18日に第1回が開催されておりまして、この中で、県から学びの改革実施計画について

要旨の説明がされたということでございます。会長については飯山市長、副会長は日台木島平村長と伊東飯山商工会議所会頭が決まっております。

2019年度から2回目以降となります。2回目は5月に飯山高校と農林高校の視察により現状把握をしていくという状況です。ここまでは基本的な状況を委員の皆さんに把握していただくという事です。3回以降から協議を進めていきたいと思っています。工程案では、9月ぐらいに提案書を作成し、10月に県へ提出としていましたが、実際には岳北の各地域での懇談会等を考慮しますと提案書作成は11～12月頃までかかるだろうと思われれます。県の第一次高校再編整備計画に間に合わせるには、11月頃までにはある程度の意見書・策定書の作成が必要だろうなと思っております。

(市長)

委員の皆さんから何か、ご意見・ご質問はありますか。
教育長、いかがですか。

(教育長)

基本的に農林高校の課題という事にはなりますが、飯山高校の課程・学科編成にも言及していかなければなりません。また飯山高校をどうするかということも大きな課題の一つになってくるだろうと思われれます。

(市長)

協議会が立ち上がったということ。今年いっぱいぐらいかけ、地元としての意見をまとめ、地域の考え方を県へ伝えていく、というスケジュールなのかと思います。この地域での農業や就職など、地域を担う人材育成の場として大事な高校ですので、何等かの形で残していけたらと考えております。こちらについては、また経過報告をいただくということで。

みなさん、ご意見はどうでしょうか。よろしいですか。それでは次の議題をお願いします。

(2) 飯山市保育園・学校課題検討委員会の最終答申について

【事務局から資料説明】

(市長)

方向性を示していただきましたので、これから具体的にどのようなことになるのかという課題も含めたシミュレーションをして、新たな検討委員会の中で検討していくということです。

これについて何かご意見はありますか。

(教育長)

あきは保育園と、しろやま保育園との統合については、保護者の間でも話が広がっており、あきは保育園への新入児は少なくなっていると聞いています。スムーズな移行になるのではないかと考えております。新年度の入園状況について常田部長、お願いできますか。

(教育部長)

あきは保育園への新入園児は、一人の予定です。

このあとの議題にあります31年度の保育園入所状況でも説明させていただきますが、すでに、あきは・しろやま保育園の統合については保護者も理解しているようです。

(市長)

直近の統合という点では、あきは・しろやま保育園ですが、これまで保護者への説明を重ねてきたという事で、現場でも理解が進んでいるということです。

それでは、次の議題へ進んでよろしいですか。

(3) 平成30年度学力向上事業・総合学力テストの結果について

【事務局(吉越教育指導主事)から資料説明】

飯山市の学力調査は、長野県で初めてベネッセを導入し、本年度で3年目になります。

現在、長野県内では2年前には須坂市が、この4月から近隣自治体がベネッセの学力調査を始めるとい事で長野県内でも広がってきています。

では、なぜベネッセの学力調査を取り入れるかという点、問題そのものが、今、求められている学力観に基づいた問題が作成されており、質の高い問題に対して、子どもたちが挑戦していくという状況にあります。

基礎的な問題と応用問題とがありますが、応用問題に対する結果が苦しい結果となっています。

4月からタブレット端末にロイロノートという授業支援型の教材ソフトをいれます。これにより少しは子ども達の思考力・判断力・情報活用能力に効果が出てくるのではないかと期待はしております。タブレット端末を有効活用すれば、この応用的な領域については若干上回る可能性もでてくるのかな、という状況であります。

次は、全国の子ども達をA～Dと25%ずつ分けた場合、飯山市の子ども達は、どこに何%入るか、というのがここに示されています。たとえばD層は学習に困り感を持った子供たちですが、勉強に自信がない子ども達ですから、できるだけ少ない方がいい。極力抑えたい。しかし飯山市では早くも1年生でも、わからない状態になっている子が出ています。これは何とかしないといけません。あるいは小学校5年生は、D層の子ども達が春に比べて増加している。逆に中学校へ行くとA層の子ども達が伸びている。これらをさらに細かく見ていきますと、注目したいデータは「教育は人なり」を表している箇所になります。A中学校2年生の理科です。春に比べて冬、A層の子ども達が10%近く伸びています。逆にD層の子ども達が23%だったものが5.6%まで減少している。教育委員さんはお分かりかと思いますが、A中学校には他市から理科に大変優れた先生が来ました。教育委員さんが見ても「あの授業はいいよね」あるいは保護者がみても「あの先生の理科は楽しいよね」という授業を行っています。それによって、たった9ヶ月で好転せることができたということ。さらにB小学校6年生の担任は、今年初めてこのクラスの担任になりました。ということは1年勝負です。平成30年の春には国語のA層は0%、D層62.5%。それが、担任が変わって9ヶ月でA層を31.3%まで伸ばし、D層を25%まで下げた。非常に若い先生です。授業の巧みさよりも熱意と情熱で、ここまでもってきたんだらうなということが想像できます。このように、学力は1年間で変えることが可能となります。そして、その逆もありえ

るということです。

1年間でも伸びたり、落ちたりする。これが教育の怖いところ。授業力のある先生、学級経営力を持った先生に教わった子ども達は伸びていきます。その逆は当然、あるわけです。

もう一つ、これは中学校1年社会科の結果です。30年の春という事は、これは小学校6年生で教わった先生の結果という事になります。小学校というのはご存知のように、教科に得手・不得手な教科があります。ですから、それが中学校へ進学して教科の専門性になってくると、これだけの力を伸ばすことが出来ます。ということは、小学校高学年あたりから教科担任制を敷くと、小学校6年生レベルはもっと上がるのだらう、ということ。文科省も小学校高学年では教科担任制を敷きたいと話しているようですが、飯山市までは学校規模からいってなかなか配置されないだろうな、とも推測されます。このあたりに飯山市の将来の課題というのが見える気もいたします。

こうした学力調査を通しながら、実際にPDCAサイクルを回して学校というものを作っていくかと思っているのが一つ、もう一つは、東京工業大学の吉川厚先生という情報解析の先生に、過去3年分の飯山市データを解析してもらっています。膨大なデータになります。学力調査と学習意識調査とを結び付けてもらい、そのなかで、飯山市の課題は何かというのを抽出していただくというのを新たな取り組みとしております。吉川先生は文部科学省の学力調査（活用型）の採点をどうすれば、全国公平にできるかという採点システムを作った先生でもありますので、結果が出てくるのを楽しみにしております。

簡単にご説明しましたが、できるだけ教師の力をあげていく。そのために飯山市としてどのような事ができるのか。あるいは飯山市全体で、どのように一人一人の学力向上・授業力向上を図っていくのか、これから重要になっていくのかなと思っております。簡単ですが以上です。

(市長)

本日、最初の2議題は学校全般的な大きな課題。これは学力向上という現場の課題。こうしたことを議論していく事も大切だと思いますが、大変だと感じます。これは、生徒による差、地区による差ということは、関係ないのでしょうか。

(吉越)

C小学校は小規模ですが、どの学級も非常に高い学力を持っている。ある意味、きめ細やかな指導ができているということで、これを言うと小規模校がよいのか、統合問題がどうかという事になる。

(小林)

これは、教育は人なり、と言いますか「子どもたちの学力は教師なり」という話がありました。仮に、教師がそこそこのレベルでも生徒の人数が少なくてケアが出来れば、子ども達は伸びる、あるいは点数がとれるという言い方もできるのでしょうか。

(吉越)

さらにそこへ加配教員をつけるなどすると、教科専門性をつけるために教科担任制の先生を増やすとか。そうした教育システムを作っていけば、どんな学校であろうと成績は伸びると考えて

います。もう一つは、校長を中心とした職員集団をどう作るか。子どもたちを育てる意識をどう作っていくか、そうしたことだと思います。

(市長)

卒業式と退任式に出させてもらいましたが、早い先生は3～4年で異動してしまう。学力が伸びたところで先生が異動してしまう。D小学校のICTの授業を視察したときも、一人の先生が、生徒の質問に個別対応していると、授業が止まってしまう。難しいなと感じた。良いかどうか課題もあるのだろうけれど、成績だけを考えた場合に、習熟度別で教育するというのはどうでしょうか。段階を追う事で理解できるようになるということはあると思いますが。

(吉越)

小規模でつくっていくのか、あるいは大規模校で加配教員を集中させるか、きめ細やかな習熟度別もできるだろうし、同質集団も異集団も作れるだろうし。いろいろなパターンでやっていくのが教育ではないでしょうか。

習熟度そのものが全ての子どもたちに合うかということ、それはまた課題もあります。

(市長)

今回の結果から中学生は学力が伸びたと思うけれど、追跡調査という事で、たとえば今の小学生が中学生になったら、このように伸びていくのだろうかに関心がありますが、どうでしょうか。

(吉越)

教育長と話すのは、私達は義務教育です、ということ。小学生で難しい状況でも、中学3年で一定のレベルまで挽回させるのが義務教育の務めということで考えております。

(市長)

客観的にみても厳しいなという感じはありますよね。

教え方が上手な先生が異動してしまうというのも厳しい。

(吉越)

人も大事ですが、すべてを人に頼ることもできないので、学校として、どういう学力を築ける体制をつくっていくか、人を育てる体制を飯山市として作っていくか。それを考えていかないと、人は確かに何年か経てば異動してしまいますので。

(教育長)

市長には、この学力調査に大きな予算をつけていただいて感謝しております。

この調査のおかげで、多くのデータがとれております。

現場の先生方は、この調査に相当なプレッシャーを感じてはいるようですが、先生一人一人が授業改善など、何かしなければという意識改革につながっていけばと思っています。

平均点ではなく、子どもたち1人1人の底上げを図りたいと思います。そのためにこの調査を有効活用したいと思っています。

(市長)

これまでは、領域として、ここまで深く踏み込めなかった、踏み込まなかったところもある。学力向上が一番大事なので、学校の統合や規模の話もあるが、目的は子ども達に学力をしっかりとつけることですので。統合して一クラスを 20 人にすることが目標ではなく、子ども達の学力をつけることだという点からぶれないようにしないと。

委員さんから、ご意見いかがですか。

(小林)

私の地元でも様々な論議はありますが、組織論ではなく人を育てる論議なので、学校はまずそこにあるべきだという地域の声を聴きます。

(市長)

C 小学校は菜の花を通じた結束力が素晴らしいですね。

学年や地域を超えての活動にみんなが参加する。

さて、それでは学力向上について、他にご意見はよろしいでしょうか。

なければ次第 4 その他で。

(部長)

それでは報告事項という事でお願ひします。

4 その他

①31 年度保育園の入所状況

②31 年度校長・教頭人事

③30 年度中学校卒業生進路状況

④小中学校・保育園冷房施設整備状況

【事務局説明】

(部長)

市内保育所の入所状況ですが、31 年度入所予定者を含めてという事ですが、私立も含めた全体では定員が 760 名、31 年度中に新規継続含めた入所児童が 516 人ということで約 68% 入所率ということです。全国的に 0~3 歳未満の子が非常に増えておりまして、長野県としても施設としては収容スペースがありますが、0 歳 1 歳は国基準が園児 3 人に 1 人の保育士、飯山市においては園児 2 人に 1 人の保育士という基準がありまして、保育士確保が難しい状況。中野市等の待機児童発生は保育士不足が原因です。飯山市においては、年度途中の新入児を含めても待機児童が出ないよう保育士を組んで対応しているところです。

先ほど統合でお話した、しろやま保育園は定員 60 に対し入所が 52 人ということで 87% の入所率になっております。新規入所で 15 人。あきは保育園が 70 人のところ 35 人というところ 5 割。新規児童が 1 名、継続と合わせても 2 名という事で、あきは・しろやまの統合というところで保護者間でもアナウンスされているところで、あきは保育園に行かずに、しろやま保育園に入

る子や、その他の園にはいる子がいる状況とみています。それから木島保育園は100人を超えているという事です。入所状況という事で報告です。

続きまして校長・教頭人事はご覧のとおりです。

(吉 越)

今年度の市内中学生の進路状況ですが資料ご覧ください。

例年と状況が変わっております。例年ですと子どもたちの70%以上が飯山高校と下高井農林へ進学していたわけですが、今年初めて70%を下回り68%になりました。下高井農林は5人に1人、20%の子ども達が進学しておりますが、その数値は例年並みで動いていない。ということは飯山高校への進学者が大幅減ということで、例年55～56%だったのが今年は47%。

(部 長)

④については資料がありません。全国的に猛暑となり亡くなった児童がいるという状況を受け、小中学校においては国の補正予算がつきまして、飯山市でも設置を進めております。保育園につきましても市費単独ではありますが、予算計上したところであります。

学校については昨日3月27日に入札も終わりすべての学校において落札され進められています。保育園は今後入札し、落札後工事に入り、暑くなる夏までにはすべての小中学校、園に設置する予定です。報告事項については以上です。

(市 長)

その他いろいろ報告させていただきましたが、いかがでしょうか。

高校の進路状況は、少し経過を見ないとわかりませんが。

(吉 越)

中野市への進学が増加していますので。ただ、飯山高校の探究科が定員割れを起こすという事がどうか、というと、やはり問題があると感じています。

(小 林)

これは改革が必要ではないかという話を、飯山高校の校長ともさせていただきました。

(市 長)

スキーでは成績を上げているので、ぜひね。

それでは、全体を通して何かご意見等ございますか。

予定していた議題はすべて終了しましたので、特になければ、これで総合教育会議を閉じたいと思います。

閉 会